



「令和6年度 地域における女性活躍・ 男女共同参画に関する調査」 中間報告

令和7年3月19日
内閣府男女共同参画局

令和6年度 地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査 中間報告

1. 調査概要

➤ 調査目的

女性を取り巻く状況(雇用、生活環境、性別役割分担意識等)は地域ごとに異なっており、地域の実情に応じた男女共同参画の取組が必要である。

アンケート調査を通じて、都市と地方における若者・子育て世代を取り巻く状況などに関する意識を把握し、全国各地における女性活躍・男女共同参画推進に向けた取組の検討材料とする。

➤ 調査方法: インターネット・モニターに対するアンケート調査(国内在住の18～39歳の男女1万人から回収)

➤ 実施時期: 令和6(2024)年12月

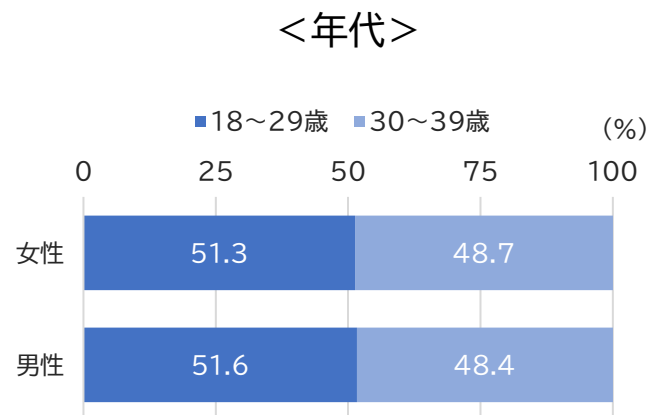
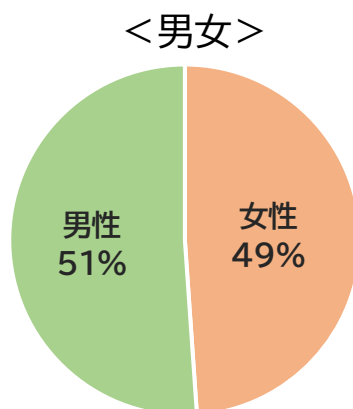
➤ 本調査の実施に当たっては、3名の有識者からなる調査検討委員会を設置。

構成員 山田 昌弘 主査(中央大学文学部教授)

小安 美和 委員(株式会社Will Lab 代表取締役)

高見 具広 委員(独立行政法人 労働政策研究・研修機構(JILPT)主任研究員)

➤ サンプル構成



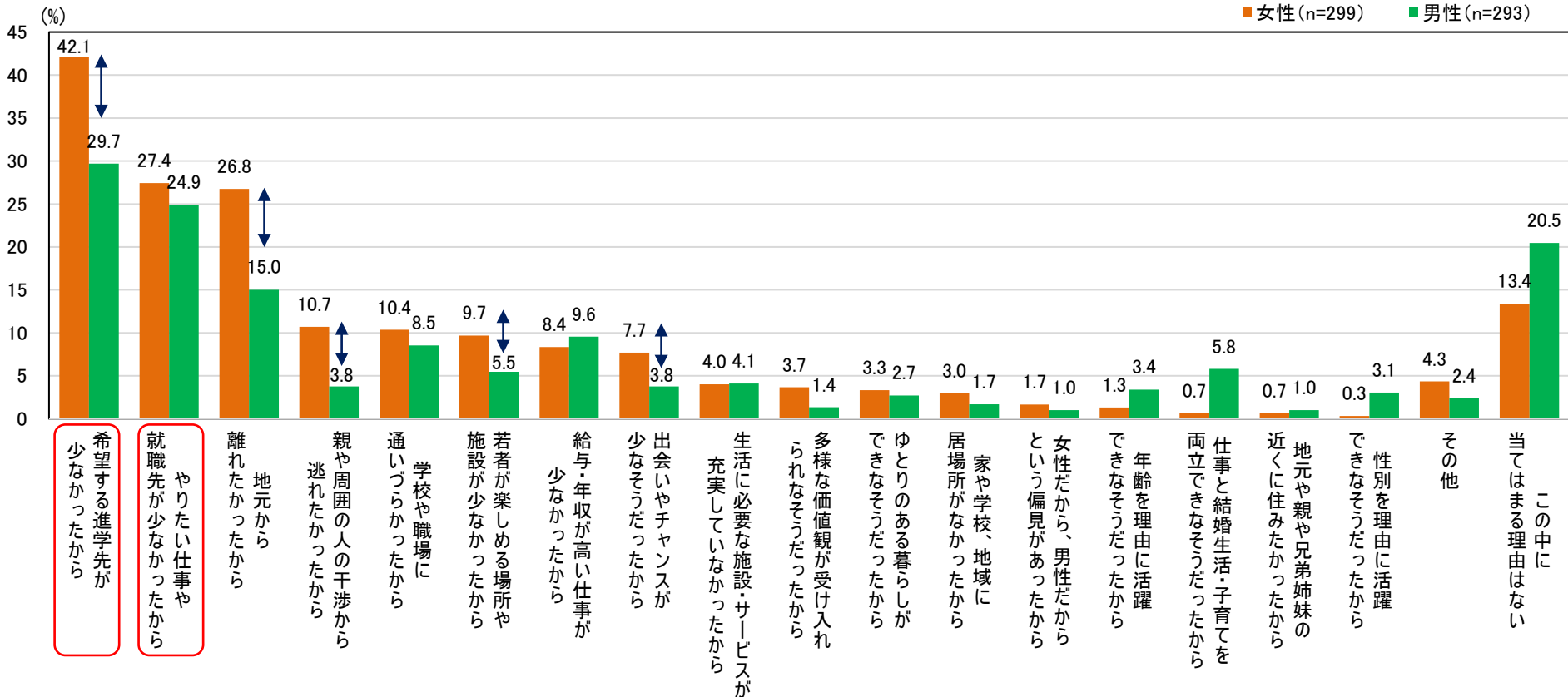
※ 本調査では、現在住んでいる地域を現住地域、中学校卒業時点の居住地域を出身地域と定義している。

令和6年度 地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査 中間報告

2. 調査結果

(1) 出身地域を離れた理由(自分の都合で転居した者(東京圏以外出身・東京圏居住層))

- 出身地域を離れた理由は、「希望する進学先」や「やりたい仕事」が少なかったから。
- 女性は、男性に比べて、「希望する進学先が少なかった」「地元から離れたかった」「親や周囲の人の干渉から逃れたかった」「若者が楽しめる場所や施設が少なかった」「出会いやチャンスが少なそうだった」が高い。



(備考)1. (設問文)あなたが、自分の都合で、中学校卒業時点に住んでいた地域から転居した(離れた)理由を教えてください。(いくつでも)

2. 東京圏:東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県。

3. 東京圏以外出身・東京圏居住層:中学校卒業時点では東京圏以外に居住しており、現在は東京圏に居住している者。

※本資料に掲載している結果は速報値であり、後日変更になる可能性がある。

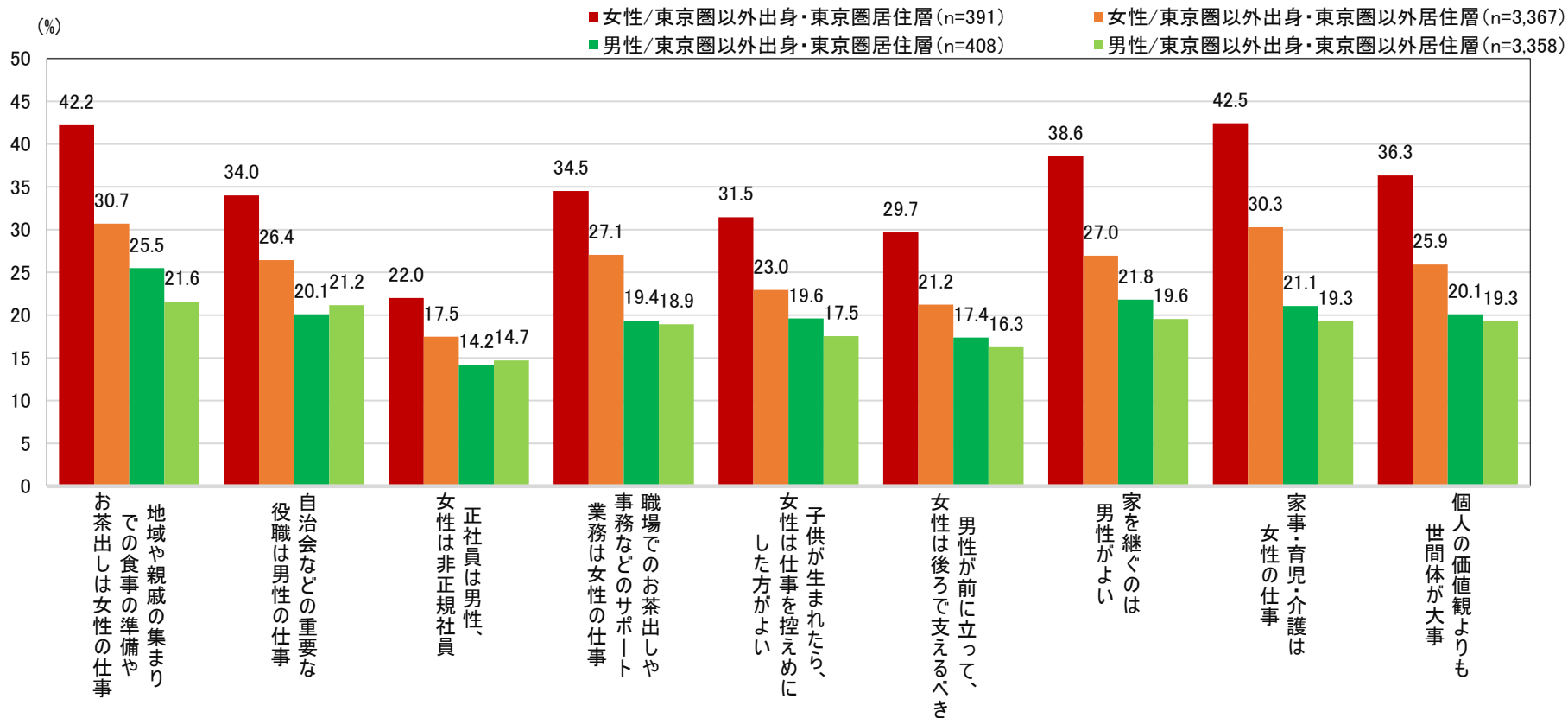


令和6年度 地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査 中間報告

2. 調査結果

(2) 出身地域における固定的な性別役割分担意識等(東京圏以外出身者)

- 東京圏以外出身者で現在は東京圏に居住している層は、男女ともに、ほとんどの項目で、出身地域で「あった(計)」とする割合が、現在は東京圏以外に居住している層と比べて高い。
- 東京圏居住層と東京圏以外居住層の「あった(計)」とする割合は、女性のほうが差が大きい。



(備考)1. (設問文)中学校卒業時点でああなたが住んでいた地域で、下記のようなことはありましたか。最も当てはまるものをお選びください。(それぞれ1つずつ)

「あった(計)」は、「よくあった」と「時々あった」の計。

2. 東京圏:東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県。

3. 東京圏以外出身・東京圏居住層:中学校卒業時点では東京圏以外に居住しており、現在は東京圏に居住している者。

4. 東京圏以外出身・東京圏以外居住層:中学校卒業時点も、現在も東京圏以外に居住している者。

※本資料に掲載している結果は速報値であり、後日変更になる可能性がある。